

今月のトピック

新型コロナウイルス感染症に対する 当院の取り組み (当院に来院される患者さん方へ)

医療安全管理部感染予防対策室 感染管理認定看護師 佐藤 厚子

世界そして日本でも、COVID-19（以下コロナ）の院内感染が疑われる事例が多数報告され、私たちの住んでいるこの地域にもその見えない敵はやってきました。当院では2月中旬から保健所からの依頼、地域の先生方のご紹介の患者さん、心配で来院された患者さん、突然の発熱で来院された患者さんなどなど、「帰国者・接触者外来」で、一般の外来とは分けて診療をしていました。

4/7の、安部総理大臣の「緊急事態宣言」を受け、当院ではその翌日から玄関ホールで、来院されるすべての方のアルコールによる手指消毒とマスクの着用確認、検温を開始しました。写真は「持ち込まない・感染しない・感染させない」を合言葉に職員一丸となって対策を行っている様子です。面会も原則禁止としましたが、緊急事態宣言が解除（5/25）された後の6/1には面会制限に緩和させていただきました（ポスター）。この間、ご入院中の患者さんやご家族の皆様にも多大なるご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

コロナの感染は、主に喀痰や鼻水などの体液およびそれらで汚染された環境に触った手で目や鼻、口などの粘膜に触れたり、くしゃみや喀痰などの飛沫が目や鼻、口などの粘膜に付着したり呼吸器に入ることによって感染します。そこで皆さんにお願いです。よく診察中にマスクを外そうとされる方がいますが、「会話エチケット」としてマスクは付けたままでお話しください。無症状でも感染している方がいることがわかっています。タイミングよく手指を消毒する（または洗う）マスクをつける、食事の時はお喋りしないことなどを守って、みんなでこのコロナ感染の難局を乗り切りましょう。当院健康管理センターでコロナのワクチン接種をしていただける日が早く来ることを望んでやみません。



新型コロナウイルスの正体と今夏の過ごし方

安全管理特任部長 尾形 英雄

残念ながら、今年の夏はコロナウイルスとの共存を考えなければならないようです。ほとんどの方は、冬のインフルエンザ流行期と春の花粉症の時しか、マスクをつけた経験はないはず。真夏にマスクして動けば、中が蒸れてうっとうしいだけでなく熱中症になる可能性もあります。これを避けるためにも、新型コロナウイルス（以下コロナ）の正体を知って、効果的にマスクをしましょう。

これまでの研究でインフルエンザや風邪と違うコロナの独特な感染様式が判ってきました。コロナ感染者は、発熱・喉の痛み・味やにおいの異常などの症状の48時間前から周囲に感染させることです。二日後に熱がでるかどうかが、誰も予測できないと思います。つまり健康そのものの友人同士集まりでも、まだ無症状の感染者が1人いれば簡単に集団感染が起きるのです。コロナ感染者の45%は、こうした無症状感染者からウイルスをもらっていることが判ってきました。もう一つはコロナが会話によってうつるウイルスだということも判ってきました。話や歌を歌うと、私たちは声帯を震わせて、目に見えない唾液の微粒子を間近な人に無数に飛ばしているのです。英国でコロナ患者から唾液を吐きかけられた駅員が、感染して死亡するニュースがありました。患者の唾液にはたくさんのウイルスが含まれます。だから宴会やカラオケなど、マスクを外して会話や歌を楽しむ場所に、無症状感染者がいれば小規模集団感染（クラスター）が発生するのは当然だったのです。

コロナの感染爆発が、欧米で起きて日本やアジアで起きなかったのはマスク習慣の違いが大きかったと思います。ただ勘違いしてほしくないのは、一般に売られているマスクには、あなたの体にコロナが侵入するのを防ぐ効果はありません。マスク越しに息をしたつもりでも、正面のフィルターを通るのは10%の空気、残りの90%はマスクの隙間からすり抜けて入ってくるのです。マスクの本当の効果は、あなたが知らずにコロナにかかっている時、会話したときの唾液の微粒子は自分のマスクにかかって相手には届かないからです。つまり皆がマスクして、始めてコロナ感染の拡大を阻止できるのです。

こう考えてくると、コロナ対策のための今夏の「新しい生活様式」は、3密（密接・密閉・密集）の場所を避けて、どうしても避けられない場合には、相手を思いやってマスクする「会話エチケット」を励行することです。また日のさす屋外ならコロナはすぐに感染力を失うので、暑くならない朝のうちマスクを外して散歩を楽しむこともできます。



“こんにちは 耳鼻咽喉科です”

はじめに、コロナウイルスの第一襲撃を受けた病院関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。そんな中で自分の持っている病気を治すために病院を信じて来院された方々に感謝です。気付けば桜→ツツジ→若葉も終わり、紫陽花の季節になってしまいました。

そんなある日、新しい耳鼻科のユニットが届きました。以前より購入決定が決まっていたらしいのですが、突然現れた器械に耳鼻科だけ嬉しいバブル期です。ガーガー、時々ブシュ、ギコギコと器械本体と椅子の演奏の日々でしたが、ユニット到来が一番喜んだのは患者の方々でした。今は静かな陽だまりの中、大声を出さずに仕事をしております。あとは咽喉ファイバーの画像を皆様にお見せできるようになれば良いのですが、そんな欲の深いことは言いません。

耳鼻咽喉科は、月曜日は咽喉疾患の治療のバイオニアの北原、火曜日はアレルギー免疫療法の内山（内科の先生のバックアップ体制に感謝です）、時々木曜日に地元の清瀬の開業医の大塚、という若くはありませんが経験豊富な三人衆で非常勤医として午前中外来で働いております。

結核の治療過程で起こる難聴、めまいの副作用の加療のために設けられたのが発端であることが前のユニットの歴史からうかがえます。今は結核の方々の病棟診察のみでなく、一般の外来の方々も予約制で診療しております。コロナ禍の影響で当科は初診の受付を制限しておりましたがそろそろ解除されると思います。

皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



『呼吸器内科へのご受診、ご紹介をお待ちしております』

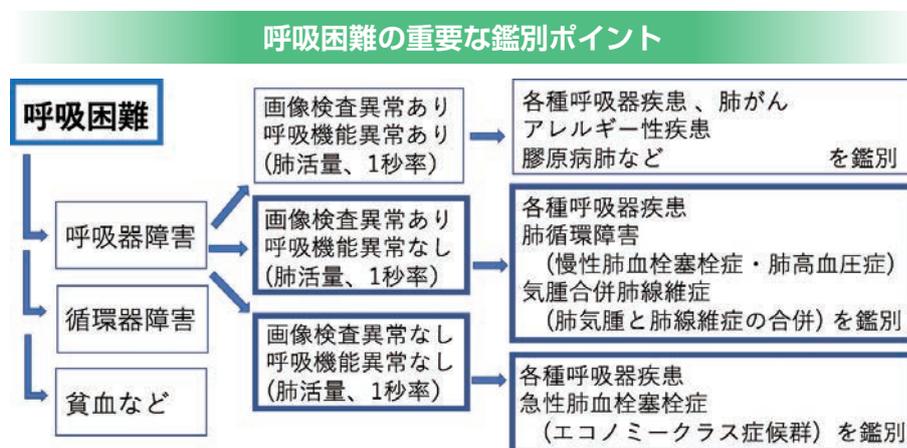
本年4月から複十字病院呼吸不全管理センター・呼吸ケアリハビリセンターに赴任しました木村 弘と申します。「呼吸器専門医」、「アレルギー専門医」、「睡眠医学専門医」として呼吸器内科と呼吸ケアリハビリの診療を行っています。得意な専門領域は呼吸困難の診断と治療で、(1)慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、間質性肺炎等に対する薬物療法と呼吸リハビリ治療です。呼吸困難対策、酸素療法、痩せに対する栄養治療も呼吸ケアリハビリセンター千住秀明部長と連携して行っています。リハビリ目的の受診も大歓迎ですのでお待ちしております。(2)肺高血圧症に対する診断・治療も積極的に行っています。肺高血圧症は各種呼吸器疾患に併存することも多く呼吸困難の原因となる疾患です。下記の図を参考にさせていただきます。また(3)非結核性抗酸菌症(NTM)に対しては呼吸リハビリと栄養療法を組み合わせることで筋蛋白量増加、抗炎症効果を目指したQOL改善にも取り組んでいきます。さらに(4)睡眠時無呼吸症候群(SAS)に対する診断と専門治療も行っています。肥満を伴うSAS患者さんに対しては、無呼吸に対する治療を生活習慣病治療と一体化して行う意義を追求してきました。これまでは日本呼吸器学会会長と日本呼吸ケアリハビリテーション学会会長



複十字病院呼吸器内科
(前奈良県立医科大学教授、
日本医科大学教授)

木村 弘

として、地方(奈良)から、医療と医学の発展、地域医療の重要性に取り組んできました。今後は出身地である東京で、地域に根ざし患者さんに寄りそった診療に力を注ぎたいと思います。毎週火曜日午前と金曜日午後が外来担当日です。患者の皆様および登録医の先生方には、ご受診、ご紹介下さいますようお願い申し上げます。



放射線科医の仕事

放射線診療部専門役 **増田 裕**

放射線科医、とくに画像診断医というと、一般の人々には馴染みのない仕事に思われるかもしれませんが。私たち画像診断医の主たる仕事は、CTやMRI等の検査から得た画像を臨床所見と対比し、適切な診断をつけることにあります(この作業を読影と言います)。画像からわかる病気は肺炎などの炎症性疾患、肺癌や消化器癌などの腫瘍性疾患、交通事故などで発生する外傷性疾患など多岐にわたり、画像診断が有益な情報を提供することは非常に多いです。時には予期せぬ病気を偶発的に発見することがあり、その場合は迅速に主治医に連絡、次に行われるべき検査や治療について適切なアドバイスを行っています。また、当科は外部医療機関からの依頼で年間に約500件のCT、MRIを検査しており、主治医と患者さんの両者にできるだけ理解しやすい報告書を作成するよう心掛けています。また、臨床医との画像所見の検討を主体とするカンファレンスを院内で定期的に行っています。

たにぐち あつお
谷口 敦夫●配属先／
膠原病リウマチセンター長

▶患者さんへのメッセージ

6月1日から膠原病リウマチセンター長として入職させていただきました谷口敦夫と申します。

1983年に三重大学を卒業し、その後は東京女子医科大学でリウマチ性疾患の診療に従事していました。リウマチ性疾患には関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの膠原病や関節炎を主な症状とする疾患などが含まれます。後者には痛風、強直性脊椎炎、反応性関節炎といった結晶、自己炎症、微生物に対する免疫応答の結果生じる疾患があります。多彩な疾患が含まれるために全てをカバーすることに困難さも感じますが、カラフルな学問と表現されることもあり、やりがいを感じる分野でもあります。

前の勤務先は新宿の真ん中にありにぎやかではありましたが、当院のまわりには大きな木や緑も多く、三重県伊勢市の出身の自分としてはなつかしさを感じます。

微力ではございますが、当院での診療に貢献したいと考えております。なにとぞご指導よろしくお願い申し上げます。

とき まさお
土岐 真朗

●配属先／消化器センター

▶患者さんへのメッセージ

6月3日より消化器内科の非常勤として入職させていただきました土岐真朗（ときまさお）と申します。

NHK大河ドラマ『麒麟がくる』で“土岐氏”が出てきたことから、出身地を聞かれることが多くなりましたが、岐阜県ではなく横浜出身（ハマっ子）です。中学、高校、大学と硬式庭球部に在籍し現在もテニスチームを2003年に創設してテニスを楽しんでおります。平成11年に杏林大学を卒業し、以降杏林大学医学部消化器内科学教室に所属しております。現在、“胆膵班”の責任者として、ERCPや超音波内視鏡関連手技を含めた胆膵疾患の診断と治療、特に、高齢者にやさしい胆膵内視鏡や膵癌の早期発見に尽力を注いでおります。週1回ではありますが、消化器内科医として肝胆膵疾患の診療とERCP関連手技を中心に、消化器の素晴らしいスタッフと共に少しでも患者さんのお役に立てるよう頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



予約・紹介のご案内

- 受付時間
平日 8:30～17:00 土曜日 8:30～12:00
- 医療機関・紹介状をお持ちの患者さんのご予約
電話 042-491-9128
FAX 042-491-3553
- 再診・初診（紹介状なし）のご予約
電話 042-491-6228

複十字病院
〒204-8522 東京都清瀬市松山3-1-24
代表電話 042-491-4111
代表FAX 042-492-4765

交通のご案内

- 電車でお越しの方
 - ・西武池袋線『清瀬駅南口』より徒歩12分
 - または、バス『南口2番乗り場』より3つ目『複十字病院前』下車
 - ・JR中央線 武蔵小金井駅より『清瀬駅南口ゆき』バス『保育園入口』下車
バス停より徒歩5分
- お車でお越しの方
 - ・小金井街道『清瀬高校入口』信号を曲がり 西に300メートル
 - ・所沢街道『全生園東』信号を曲がり病院通りを東北に2キロメートル